

早いもので、もう納めのご供養会になりました。コロナ禍の中での皆様のご修行、大変だったと思いますけれども、納めのご供養会を今日させて頂く事ができました。

今日の私の話は、言い訳という事です。

会主さまがご生前中、言い訳が一番怖いとおっしゃいました。

私も含め、皆さんも今日までの中で、法の部分、それ以外でも言い訳をしてきたわけです。そして、言い訳をすると、更にまた次に言い訳をしなきゃいけないという事を私たちは知っておくことが重要です。

そして、言い訳というのはほとんど嘘が多い。真実の言い訳ってあまりないですよ。言い訳するという事は、嘘をついたという事でもあります。

言い訳の元をたどると、自分の利益のためです。人の利益のために言い訳する人はほとんどいません。利益というのは自分を良く見せたいとか、人から指さされたくないとか、人に変に思われたくないという思いがあるからです。

さらに、会主さまは、言い訳という中に嘘があるのは、自分の欲があるからだとおっしゃっていました。

昔こんなことがありました。寒修行で大導師さまが導師をお務めされた時のことです。当時の職員が寒修行前日の準備で、お鈴棒を忘れてしまった。

私も含め、何人かの職員がいました。点検不足でしたとか、もう一度、大導師さまがお越しになる前に見ておけば良かったです、とかこうやって、私も含め言ったわけです。その後、執務室に呼

ばれて。大導師さまから「言い訳するな！」とご指導を頂きました。

では、どのように返せば良かったか。お答えすれば良かったか。

それは、『申し訳ありませんでした』と懺悔するしかないのです。

当時、大導師さまの職員に対するご指導の中で、一番厳しいご指導は、言い訳に対するご指導でした。

私たち職員というのは、年中本部に来て、年中大導師さまがいらっしゃる環境にいる。そうすると、つい大導師さまからのご指導を、言い訳で答えるぐらいしか受けてないようになってしまうのです。慣れてしまうのです。ここが大切なことです。だから平気で嘘つくし、平気で屁理屈を言ってしまう。

でも、一番怖いのは、言い訳していることさえ気づかない人がいるわけです。ただ頭を下げて懺悔に入ればいいのに、人前で言われると、素直になれなくて、いいかっこしようとしてしまう。バカにされたくないとか。

だから皆、言い訳する。大導師さまが私たち職員に対しては、とても厳しく尊いご指導をたくさんくださったのです。人間というのは不思議なもので、それがきちっとできていないのです。

それだと、先に進まないわけでしょ。悪い事は悪い。できなかった事はできなかった。ちゃんと認めればいい。何もそれを認めたからって、罪深き人間だとレッテル貼られるわけじゃないのです。

言い訳をせず、きちんと認めて、懺悔をすればいいのです。

今日は内部の話をしながら、皆さんにもぜひ、振り返って頂ければと思います。

1日に、12月は懺悔の月と申し上げたので、懺悔も言い訳の懺悔じゃだめだからね。ただただ申し訳なかったでいいの。まだ半月あります。言い訳のない懺悔をする。どうぞそういう月にして頂きたい。それをお願いいたします。

それと、これで終わりますけど、もうひとつ、昨日、お経を上げた後に、会主さまとご一緒した生活の中での思い出した話を最後にして終わります。

私が小さい頃、会主さまに申し上げたことがあります。

それは「おばあちゃん、僕大きくなったら、大きな飛行機買って、その飛行機に信者さん乗っけて、幸せの国に僕が操縦していくから、後継いでちゃんとやるから」と言ったら、会主さまが僕の顔見て『ありがとう。信者さん全員を妙智會の飛行機に乗せてね、それだけは忘れないで』とおっしゃったんですね。

私は今でもはっきりその時の会主さまのお顔を覚えています。

当時の会主さまとのお約束を鮮明に思い出す中で、なんというか、今年コロナで皆さんにご苦労かけて、辛い思いを多々させてしまって、本当に安心という飛行機に皆さんに乗ってもらえないまま、今日に至ってしまったんだなと思ひまして。

本当に不甲斐ない法嗣で、今年1年間、皆さんに喜びを与えられなかったっていう事に対して、最後に懺悔をさせていただきます。本当に申し訳ありませんでした。お許し下さい。

私が会主さまに誓った事を、必ず実現できるように修行させて頂きますので、どうぞ、一緒について来て下さい。本当に大変な時に、救ってあげられなくて、申し訳ない思いです。

必ず、来年大導師さま七回忌、必ず良かったっていうふうにさせて頂くので、信じて一緒にご修行して下さい。

本当に一年間ありがとうございました。一緒に修行して下さい。以上です。ありがとうございました。

※ FAX 送信の繰り返しで本書が見にくい場合、事務局にご連絡頂ければお送り致します。